参考資料

和泉市都市再生整備計画
事業評価委員会

【JR和泉府中駅周辺地区（２期）】
説明資料

平成30年12月6日

目次

1.都市再生整備計画事業の概要
2.事後評価の進め方
3.都市再生整備計画の内容
4.事後評価
　4-1　成果の評価・効果発現要因
　4-2　実施過程の評価
5.今後のまちづくり方策
6.今後のスケジュール（予定）

1.都市再生整備計画事業の概要

国土交通省が平成16年度に創設した補助の仕組み

平成22年度から、社会資本整備総合交付金の一部となった（まちづくり交付金から名称替え）

市町村

各種のまちづくり事業の実施

■ハード事業
道路、公園、河川、下水道、住宅等

■ソフト事業
社会実験、空き店舗・家利活用、各種調査

市町村の自主性・裁量性を最大限発揮、地域の創意工夫を活かす

都市再生整備計画 →

← 社会資本整備総合交付金

国土交通省

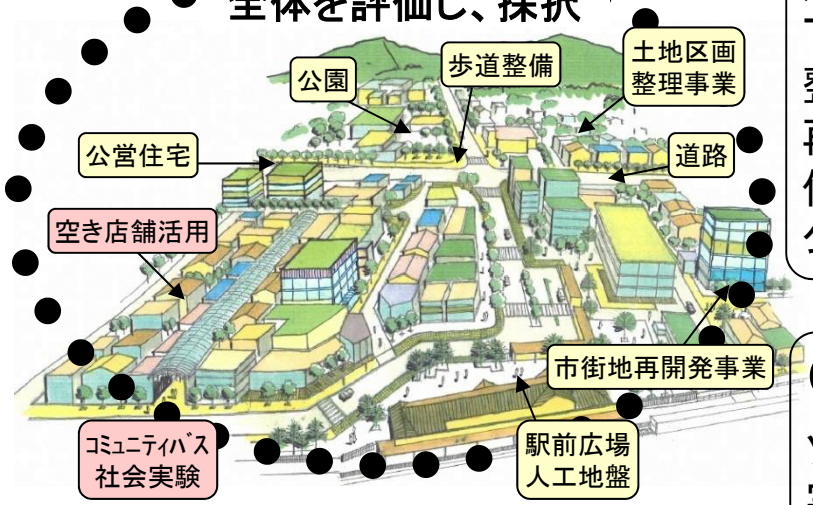
目的

地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした個性あふれるまちづくりを実施し、全国の都市の再生を効率的に推進することにより、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図る

1.都市再生整備計画事業の概要

◆都市再生整備計画事業の仕組み

都市再生整備計画
全体を評価し、採択



幅広い交付対象

○基幹事業

道路、公園、河川、下水道、土地区画整理事業、市街地再開発事業、公営住宅等整備等の公共事業

＋

○提案事業

ソフト事業（社会実験、空き店舗・家利活用、各種調査）等の市町村の提案に基づく事業

×

事業費の概ね4割

＝

交付額

国費は都市再生整備計画の枠内の事業にどのように充当しても自由

- 区画整理
- 駅前広場
- ｺﾐｭﾆﾃｨﾊﾞｽ
- 空き店舗活用
- ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ
- 道路
- 住宅
- 社会実験

1.都市再生整備計画事業の概要

◆都市再生整備計画の記載内容

まちづくりの経緯、まちの現況・まちの課題

まちづくりの目標

例：活性化、賑わい、安心・・・・

目標の具現化・数値化

指標（数値目標）

◆目標が達成されたかを検証

◆目標と事業にあわせて独自に設定

◆従前値と目標値を定める

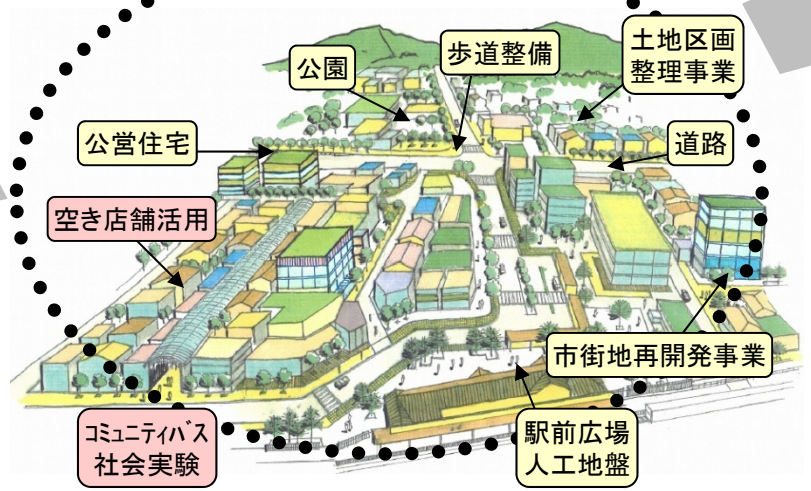
区域

期間3～5年

整備方針

目標達成のためのまちづくり事業の具体化

事業の内容と箇所



事後評価　今回

事業実施後に指標が達成できたか検証

1.都市再生整備計画事業の概要

◆基本的な考え方（ＰＤＣＡサイクル）

都市再生整備計画の作成 *Plan*

公表

地域の特性を踏まえ、まちづくりの目標と目標を実現するために実施する各種事業等を記載した都市再生整備計画を作成し社会資本総合整備計画に記載

事業の実施 *Do*

都市再生整備計画に基づき、まちづくりの目標達成に必要な事業を実施

交付金の交付

事後評価 今回 *Check*

公表

交付期間終了後、目標の達成状況等に関する事後評価を実施し、その結果等について公表

必要な改善策の実施 *Action*

事後評価結果を踏まえ、新たに浮き彫りになった課題への対応策を検討し、必要な改善策を実施

2.事後評価の進め方

◆事後評価の進め方

「都市再生整備計画」の作成

事業の実施

H25～H29年度

事後評価 今回

事後評価手法の決定（方法書）

事業の成果及び実施過程の評価等

事後評価原案の作成

住民への公表・意見集約

評価委員会での審議

評価結果を国へ提出・住民への公表

H30年度

フォローアップ・今後のまちづくり

H33年度予定

3. 都市再生整備計画の内容

◆計画概要

【地区名】JR和泉府中駅周辺地区（2期）

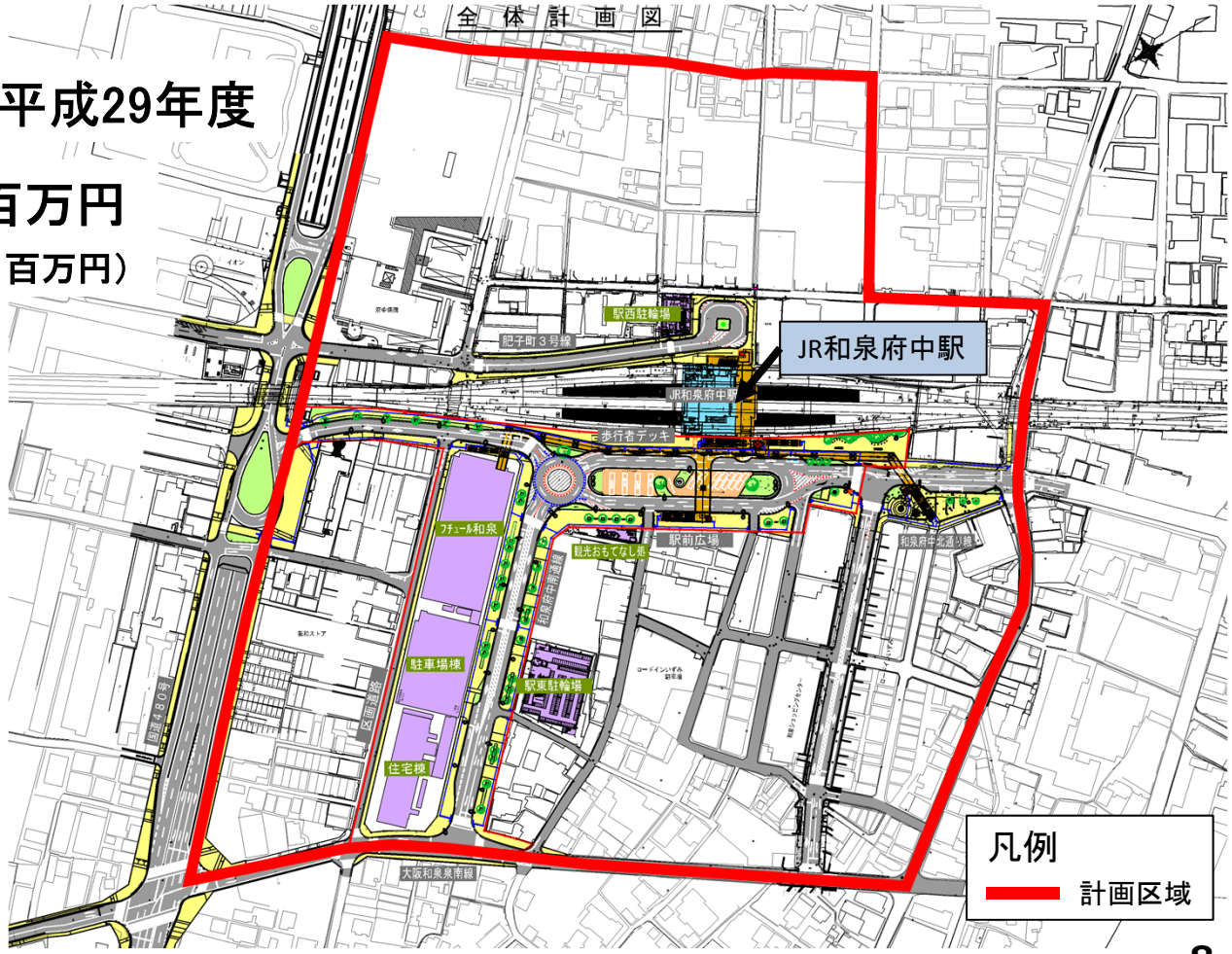
【面積】14.8ha

【交付期間】平成25年度～平成29年度

【交付対象事業費】244.2 百万円

※実施事業費（217.1百万円）

【国費率】0.4



3. 都市再生整備計画の内容

◆まちづくりの課題

・一体的な地域整備により本市の都市核にふさわしい、**活力ある商業・業務活動、文化交流活動を担うまちづくり**

・既存の周辺商店街の活性化が求められており、駅前主要道路の整備や駅前広場等の**歩行者ネットワークの整備により回遊性の向上**を図り、**和泉府中駅周辺地区一体の賑わいを創出**する

◆まちづくりの目標

大目標：安全で快適な和泉市の玄関としてふさわしい地区へと再構築を図る

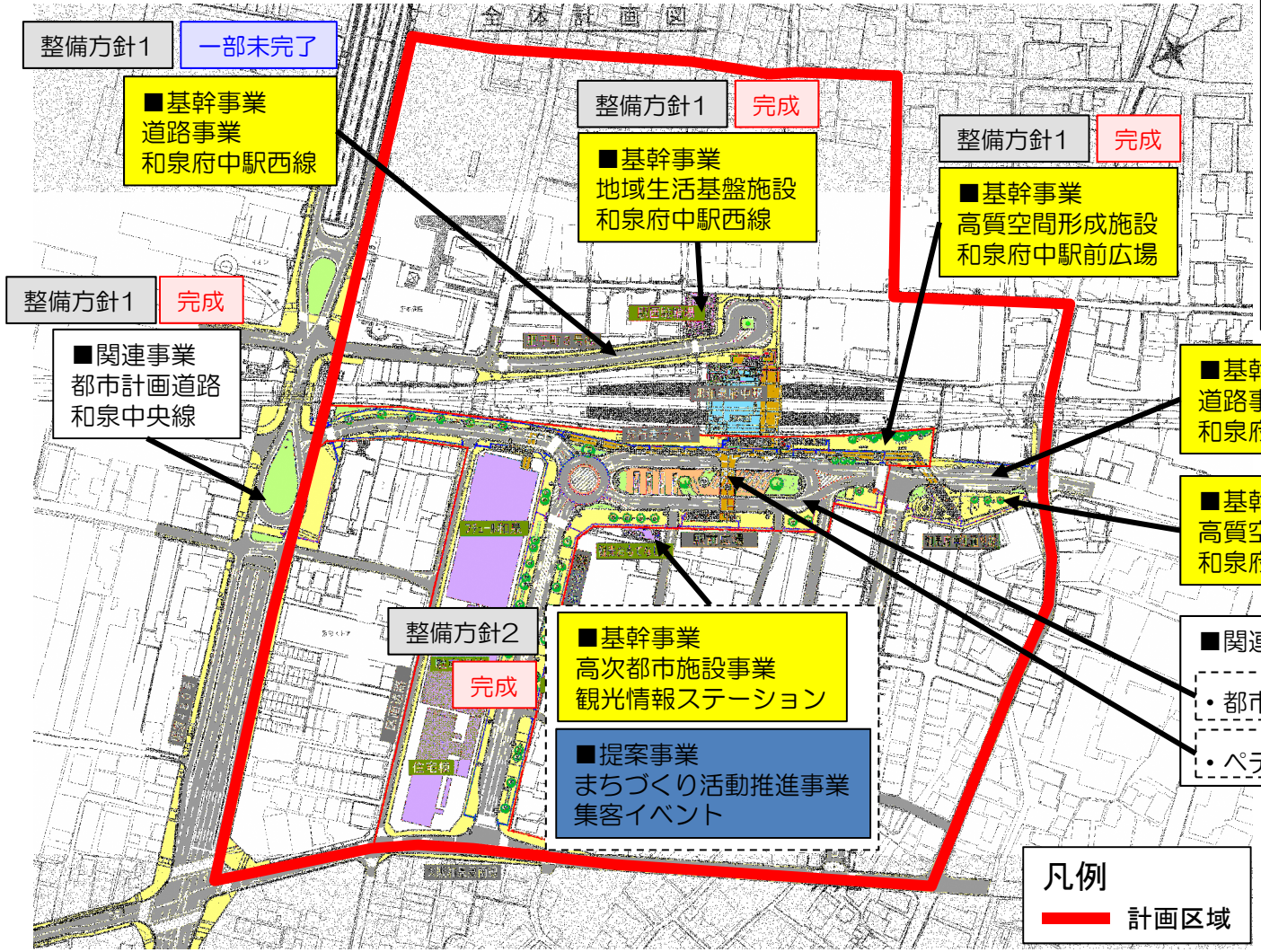
目標1：都市基盤施設である道路の築造・改築することにより、交通安全性、歩行者の快適性の向上を図る

目標2：施設更新する観光情報ステーションを情報発信源とし、地域の文化、交流活動を促進するまちづくりを進める

3. 都市再生整備計画の内容

◆都市再生整備計画事業で実施した事業の内容

【整備方針１】
本市の商業・業務機能の中心的な役割であるJR和泉府中駅周辺において、都市基盤施設となる道路、駅前広場並びに関連施設を整備することにより、安全で利便性の高い施設整備を図る
【整備方針２】
観光情報ステーションの整備を行うことで、地域の文化・交流活動が促進され、まちの拠点として集客の向上を図ることで、地域の活性化を誘導する



3. 都市再生整備計画の内容

◆目標を定量化する指標

指標	単位	定義	従前値	目標値
1.和泉府中駅周辺が利用しやすいと感じる市民の割合	%	市民アンケート調査による意向	23.0 （H24年度）	80.0 （H29年度）
2.観光情報ステーションの来館者数	人	施設利用者数	4,461 （H23年度）	5,385 （H29年度）

◆その他の数値指標（上記以外の数値指標）

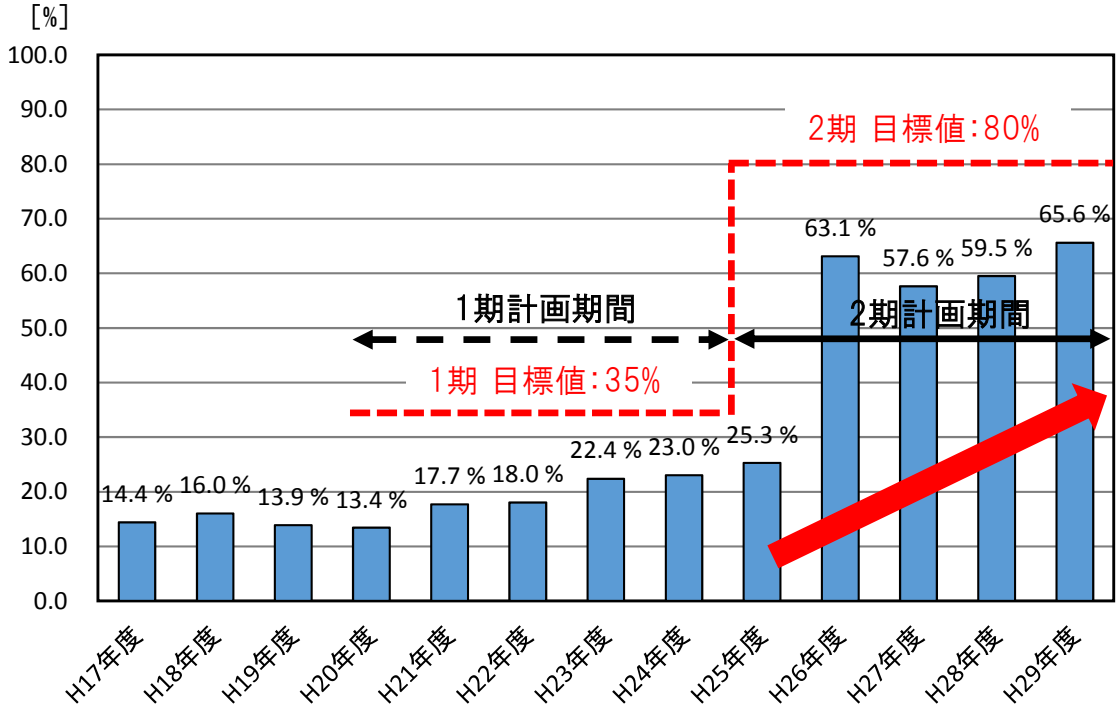
指標	単位	定義	従前値	目標値
1.和泉府中駅周辺の交通事故発生件数	件	計画区域内の交通事故発生件数	25 （H26年度）	―
2.和泉府中駅周辺地区でのイベント実施回数	回	同地区で行われたイベントの実施回数	0 （H24年度）	―

※その他の数値指標は都市再生整備計画には記載していない（事後評価時に検討・設定）

4-1　成果の評価・効果発現要因

◆指標１：和泉府中駅周辺が利用しやすいと感じる市民の割合

従前値	目標値	評価値（見込み）	目標達成度
23.0 %	80.0 %	65.6 %	△ 未達成



総合所見

目標値には達しなかったものの、従前値と比べると大幅に増加しており、特に本整備計画（2期）の期間中に大幅に増加していることから、道路整備等の効果が一定現れていると評価できる。

改善の方針

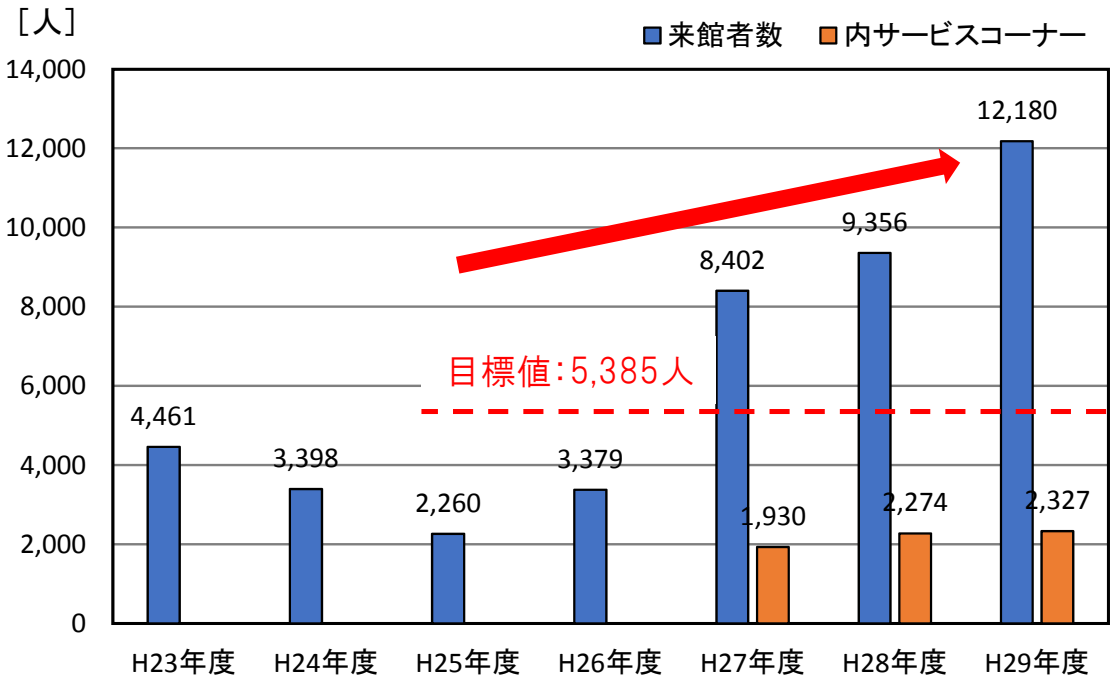
当該整備計画区域では、一定整備が完了している。今後は近隣も含めて整備を行い、一体の地区として、広域的に交通利便性・快適性を向上させることで、指標値の増加につなげる

［出典］『第5次和泉市総合計画』の目標管理のための市民アンケート調査

4-1　成果の評価・効果発現要因

◆指標２：観光情報ステーションの来館者数

従前値	目標値	評価値（確定）	目標達成度
4,461 人／年	5,385 人／年	12,180 人／年	○ 達成



［出典］目視調査結果（いずみアピール課よりデータ提供）

総合所見

観光情報ステーションの移転に伴う、利便性の向上や認知度の向上が大きな要因であると考えられる。また、駅利用者の増加も相対的に影響していると考えられる。

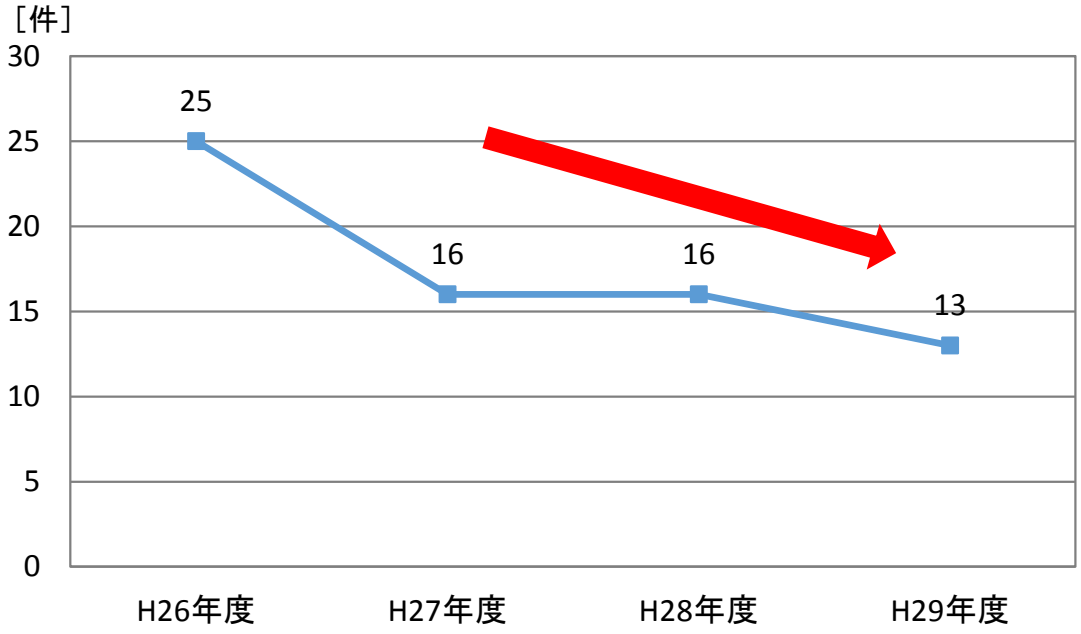
今後の活用

地域のイベント・まちづくり活動等の発信拠点として活用を行う

4-1　成果の評価・効果発現要因

◆その他の数値指標1（当初設定した数値目標以外の指標）【和泉府中駅周辺の交通事故発生件数】

従前値	目標値	評価値
25 件	―	13 件



総合所見

交通事故発生件数は周辺の整備により、交通安全性の向上が図られ、減少している。

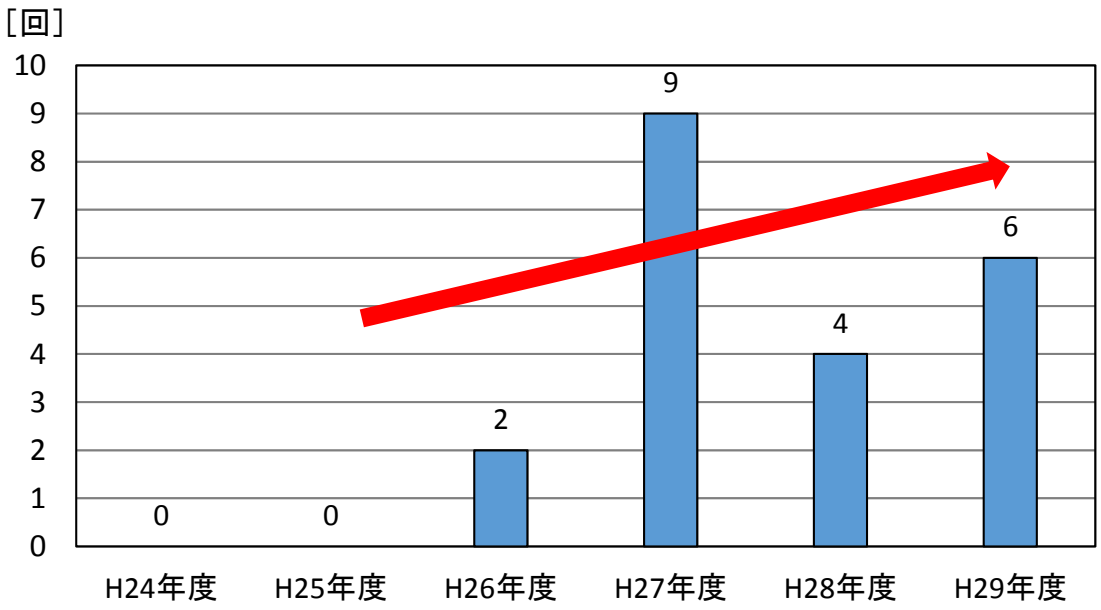
※交付期間初年度のデータは入手不可

[出典]和泉警察署よりデータ提供

4-1　成果の評価・効果発現要因

◆その他の数値指標2（当初設定した数値目標以外の指標）【和泉府中駅周辺地区でのイベント実施回数】

従前値	目標値	評価値
0件	―	6 件



総合所見

観光情報ステーション（いずみの国観光おもてなし処）の移転や駅周辺の基盤整備により、道路空間などを利用したイベントが実施され、地域の活性化が図られている。

[出典]いずみアピール課よりデータ提供

※上記イベントは、観光情報ステーションでのイベント、いずみ音楽祭、いずみウインターイルミネーションである

4-2　実施過程の評価

◆住民参加プロセス・持続的なまちづくり体制の構築の実施

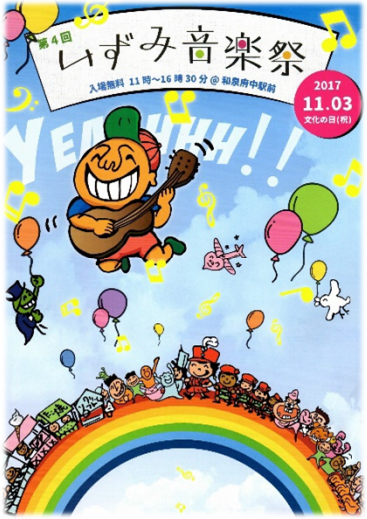
実施内容	体制構築に向けた取り組み内容	関係機関名	今後の対応方針
観光情報ステーション（いずみの国観光おもてなし処）でのイベント活動	観光情報ステーション（いずみの国観光おもてなし処）を活用したイベントの企画・実施を随時行っている。	いずみアピール課 商工労働室	今後も観光情報ステーション（いずみの国観光おもてなし処）で開催されているイベントの継続的な支援及び活動記録を発信する。
地元商店街との連携活動	地元商店街等が主体となり、イベント活動の実施を行っている。	地元商店街 商工労働室	音楽祭やイルミネーションなどのイベント活動を継続的に行えるよう支援を行い、地域の活力の向上に寄与していく。
桃山学院大学との連携事業（商店街空き店舗を活用したサードプレイスシェア桃大の運営や図書館での読み聞かせ活動）	和泉府中駅周辺にある施設を利用した地域活動が実施されている。	政策企画室 いずみアピール課 商工労働室	今後も桃山学院大学を始めとした各種団体との連携を継続的に行い、賑わいの創出、地域活力の向上に努める。

4-2　実施過程の評価

◆まちづくり体制の構築に向けた主な取り組みの実施状況

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
いずみ音楽祭		● 2014.11.2開催	● 2015.11.3開催	● 2016.11.3開催	● 2017.11.3開催
いずみウインターイルミネーション			● 2015.12.9～ 12.27開催	● 2016.12.1～ 2.28開催	● 2017.12.1～ 1.31開催
観光情報ステーション	0 回	1 回	7 回	2 回	4 回

【いずみ音楽祭】



【いずみウインターイルミネーション】

5　今後のまちづくり方策

◆まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に 記載したまちの課題	達成されたこと （課題の改善状況）	残された未解決の 課題
一体的な地域整備により本市の都市核にふさわしい、活力ある商業・業務活動、文化、交流活動の基盤となるまちづくりが課題である。	当該地区においては、和泉府中北通り線のような高質空間が整備され、道路空間を活用したイベントなどの地域活動が地元商店街等により実施されており、地域の活性化が図られている。また、観光情報ステーション（いずみの国観光おもてなし処）を活用したイベント活動等も積極的に実施されており、周辺地区ににぎわいを創出する体制・基盤は整ってきている。	周辺商店街を初めとした和泉府中駅周辺地区の更なる活性化が求められている。
歩行者ネットワークの整備により回遊性の向上を図り、和泉府中駅周辺地区一体に賑わいの創出が課題である。	当該地区においては、道路などの整備により交通利便性は向上している。　また、当該地区内の居住者も増加している。	当該整備計画区域内だけでなく、その周辺地区についても、広域的に都市空間の質（交通利便性・快適性・安全性）の向上を図るため、継続的に整備を行う。

5　今後のまちづくり方策

◆効果を持続させるために行う方策

効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
地域活動や観光情報ステーション（いずみの国観光おもてなし処）を活用したイベント活動などを継続的に実施し、人の賑わい、まちの活力の向上を図る	イベント活動などの実施主体者への支援を継続的に行う。	実施主体者と連携した活動の企画・実施及び活動の記録

◆改善策

改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
周辺商店街を初めとした和泉府中駅周辺地区の更なる活性化	今後も、観光情報ステーション（いずみの国観光おもてなし処）など、これまで行われてきた基盤整備を活用したイベント活動を継続的に行えるよう支援を行う。また、周辺商店街を地域の情報発信の拠点とするなど、地域の特色を活かした賑わいある和泉府中駅周辺地区の更なる活性化に努める。	地元商店街などイベント実施主体者への継続的な支援
広域的な都市空間の質の向上	今後は、当該整備計画区域だけでなく、その周辺地区についても、同様の整備を行い、広域的に都市空間の質（交通利便性・快適性・安全性）の向上を図る	高質空間形成施設の整備

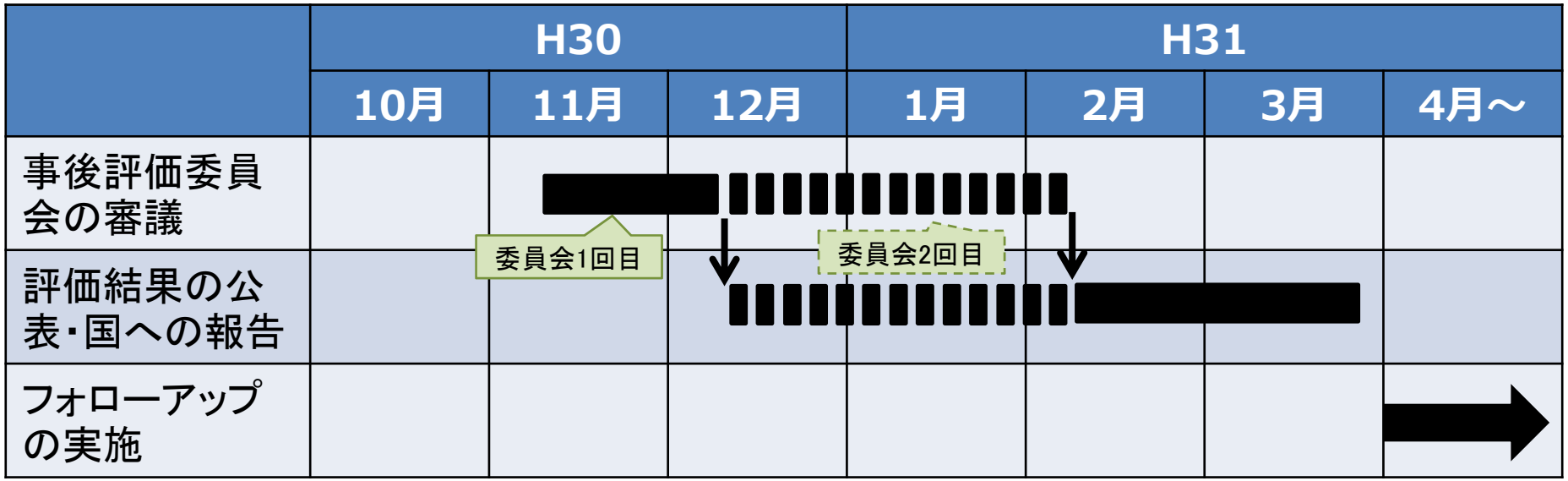
5　今後のまちづくり方策

◆フォローアップ計画

指標	予定時期	計測方法
【指標1】 和泉府中駅周辺が利用しやすいと感じる市民の割合	H33年7月	政策企画室が実施している市民アンケート調査の数値を用いて確定値とする。
【その他の数値指標1】 和泉府中駅周辺の交通事故発生件数	H33年7月	本都市再生整備計画区域内での事故発生件数について集計を行い、評価値とする。
【その他の数値指標2】 和泉府中駅周辺地区でのイベント実施回数	H33年7月	イベントの実施回数について集計を行い、評価値とする。

※指標2：観光情報ステーションの来館者数は確定値（目標達成）のため、フォローアップ計画には記載なし

6.今後のスケジュール（予定）



○事後評価委員会の審議
・1回を想定しているが、場合によっては2回実施
○最終評価結果の公表
・公表方法：市ホームページへの掲載・道路河川室窓口での閲覧
○フォローアップの実施
・確定値の計測予定時期（H33年度7月）